

---

デジタルパンク通信 第七話 2000年9月号

---

Q 先生でしょうか。友人でしょうか。

A 友人です。

教育方針、ですか？9歳と6歳の息子がいるんですが、私が知識を教えることはないですね。しっかりメシ食うことと、人様にちゃんとあいさつすることの2点だけですかね、私が教えることといえば。生存することと、コミュニケーションすること、って言い換えてもいいんですけど。

私が小さい頃は、お勉強できる子より、「こんにちは」って大きい声で言える子の方が、えらいねーってほめられていたような気がするんです。どこかで価値が変わったんですかね、知識をたくさん持っている人がいい学校に行って偉い人のように思われるようになってます。

その点コンピュータやネットは何でも知ってる先生です。世界中の知識を集めて与えてくれます。正確に聞けばしっかり答えを教えてください。とてつもなく偉いです。逆に、われわれ人間は、いくら脳みその中に知識を詰め込んでも、覚えて覚えて覚えても、デジタルには勝てなくなりました。

大化の改新が何年に起こったかとか、硝酸ナトリウムの化学式とか、そういう知識を徹底的に頭ん中に詰め込んでいる秀才と、友達がやたら多くて誰に聞けばいいかどこにアクセスすれば分かるかは知ってるけど暗記力ゼロのパーと、どっちが偉いかといえば、ゼツタイ後者です。偉いということの意味がまた元に戻ってきたと思います。

情報があふればあふれるほど、アクセスする技能、リンクを貼る土地勘、友人を作る能力、というものが決定的に大切になってきます。リンクだってイッパイ貼っていかねばいけないし、ブックマークの管理だって大変です。脳みその容量を知識なんかで使うのはもうもったいない。知識なんて、ネット上のどこかに置いておけばいい。

ただ、デジタルがいくらモノ知りだからといって、先生にしてしまうのもしゃくです。私はデジタルを仰ぎ見るつもりはありません。いつも一緒にいるんだから、せめて対等でありたい。友達になりたいんです。モノを教えてくれるより先に、彼には私を楽しませてほしい。腹の底から笑わせてほしい。苦しい時くやしい時に気持ちをわかってほしい。共にはらはらと感動の涙を流してほしい。簡単に言えば、お高く止まってんなよ、ということでもあります。

最近、ロボット・ペットがたくさん発売されていますね。一緒にじゃれてくれる犬や歌ってくれる犬、お話してくれる鳥、なごませしてくれる金魚やクラゲ、など。オモチャの形をしつつ高性能チップを備えたコンピュータですが、感情レベルで遊ぼうとしてくれます。

きちんとあいさつしながら友達になってくださいと私に近づくコンピュータがようやく現れてきたわけです。このジャンル、日本のメーカーの得意分野ですしね、楽しみです。

---